

<原著> 第41回 日本赤十字社医学会総会 優秀演題

日赤図書室ネットワークにおけるホームページの活用

さいたま赤十字病院図書室¹⁾, 静岡赤十字病院図書室²⁾, 浜松赤十字病院図書室³⁾原田 茂¹⁾ 天野いづみ²⁾ 飯田育子³⁾

Practical use of the homepage in Japanese Red Cross Hospital Library Network

Shigeru HARADA¹⁾, Izumi AMANO²⁾, Ikuko IIDA³⁾Saitama Red Cross Hospital¹⁾, Shizuoka Red Cross Hospital²⁾, Hamamatsu Red Cross Hospital³⁾

Key words : 病院図書室, 図書室ネットワーク, ホームページ

I. はじめに

病院図書室(以下, 図書室)は利用者が必要としている資料の入手に支援を行わなくてはならない。従来は, 病院スタッフに必要な文献や情報を提供することがほとんどであったが, 病診連携により, 地域開業医の利用も増えている。また, 最近, インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンの推進によって, 患者さんの医学情報入手に対する要望の高まりにより, 患者さんに医学情報を提供する図書室も出てきた。しかし, 病院図書室の多くは所蔵資料・情報量が少なく(充分ではなく), 利用者の研究や研修に必要な文献・情報を全て自室でまかなうことは不可能である¹⁾。そこで大学図書館などへ文献複写を依頼したり, 他の病院図書室とネットワークを組み, 低価格・短時間で文献を入手する「文献相互貸借」が不可欠となってきた。1993年に医師に対する過剰な文献サービスに批判が集まり, 自粛徹底の通達がされた影響²⁾により, 医師からの文献依頼は増加している。また, 2005年からの新医師臨床研修制度においても, 臨床・医学情報の提供に図書室の役割は大きい³⁾⁴⁾。インターネット革命により, 情報過多の中で適切な情報を提供するためには, 図書室担当者のレベルアップが必須である。しかし, 多くの病院図書室は, 兼務や一人勤務のため, ネットワークを活かして研修に参加し,

新しい情報の入手方法・情報管理の技術や指導力を学ぶ必要がある。

このような状況を背景として, 1994年に日赤図書室協議会(以下, 協議会)を立ち上げた。会員数は59施設(2006年4月現在)で, 「会員相互の協力と研鑽により, 図書室の充実と向上に努め, 医療情報活動を通じて日赤医療事業の発展に貢献すること」を活動の目標としている。協議会では, 研修会の開催, 会報「日赤図書館雑誌」と「日赤医学雑誌総合目録」の発行などの事業を行っているが, 本稿では協議会ホームページの概要と日赤ネットワークでの活用について述べる。

II. ホームページの開設

近年の急速なIT技術の発達により, 情報分野はインターネットの時代へと変貌した。図書室の日常業務でもインターネットが欠かせないものとなってきた⁵⁾。すでに文献検索の分野では, CD-ROM検索からインターネット上での検索に移行している。医学情報も冊子体が到着する前に, 電子ジャーナルで閲覧が可能である。病院図書室ネットワークにおいては, 会員に情報を迅速・安価に配信するホームページの開設はもはや必須である。協議会では2003年8月にホームページ(図1)を開設した。いうまでもなくホームページは情報を発信する一つのツールである。開設当初は会員への情報発信と, 日

赤の非会員向けに研修会の案内、および病院管理者に協議会事業の理解と協力を得ることを主な目的とした。その後、単なる情報の発信だけに留まらず、会員が知り得た知識・情報を活か

して、図書室担当者の日業業務や日赤病院の医療活動に役立つようなホームページ作りを目指した。

サイトマップ <http://jrch-library.peko.li/index.html>

<ul style="list-style-type: none"> ■日赤図書室協議会とは <ul style="list-style-type: none"> 会則 会員名簿 赤十字病院の図書室 赤十字の患者図書室 ■研修会 <ul style="list-style-type: none"> 9回研修会記録 10回研修会記録 11回研修会記録 12回研修会記録 13回研修会記録 ■リンク集 ■日赤図書館雑誌（会報） <ul style="list-style-type: none"> 8巻目次 9巻目次 10巻目次 11巻目次 12巻目次 ■文献申込み方法 	<ul style="list-style-type: none"> ■掲示板（公開） <ul style="list-style-type: none"> 重複雑誌交換 日赤医学会参加記録 更新履歴 会員のページ 相互貸借休止情報 製本情報 会員限定のページ <ul style="list-style-type: none"> 目録の検索 会員・相互貸借協力機関名簿 資料の相互利用－文献申込と受付の手順&マナー 雑誌目録の修正 会員専用掲示板 病院機能評価 <ul style="list-style-type: none"> 領域別面接－診療 訪問審査質問事項－診療 訪問審査質問事項－看護 訪問審査質問事項－事務 統計・調査
--	---



図1-a) トップページ

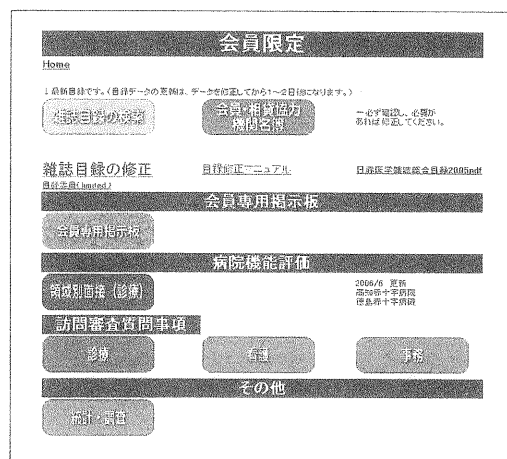


図1-b) 会員限定のページ（パスワードが必要）

Ⅲ. 資料の相互利用－日赤医学雑誌総合目録

前述の文献情報提供サービス自粛に²⁾より、図書室に文献複写の需要が急増し、業務の大半を占めるようになった。他機関に文献複写を依頼する「相互貸借業務」には、各図書室の雑誌所蔵状況を掲載した「日赤医学雑誌総合目録」

が必要である。日赤の医学雑誌目録は平成8年に「赤十字病院相互間の連携と資源の有効活用に資する」として、協議会の協力により、日本赤十字本社（以下、本社）から発行された。以後、協議会では、本社目録を引き継ぐ形で、冊子体目録を毎年発行してきた。しかし、紙媒体の目録では、参加機関のデータを毎年集め加除

訂正する必要がある、発行に膨大な時間と労力を要する。また、紙媒体でのデータのやりとりは郵送で行われるため、コストがかかってしまう。そのため、この目録をインターネット上で修正・検索できるようなデータベースとして構築し、ホームページ内の「会員限定のページ」(図1-b)に掲載した。

また、図書館の協力関係を迅速かつ効果的に実施するためには、所蔵情報の標準化・情報交換が必要となるため、書誌項目を国立情報学研究所の総合目録データベースを基準として採用している。

データの修正は会員図書館のパソコンからインターネット上で必要箇所を随時修正できるようにした。所蔵雑誌の欠号が判明した時点で、会員は直ちにデータを修正することができるため、コストと時間が大幅に削減できた。所蔵データの検索は、雑誌名の一部やISSN (International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号) を入力すると、雑誌名一覧が表示され、求める雑誌と、その雑誌を所蔵している病院名と所蔵データが表示される。いうまでもなく検索時間は紙媒体よりも短縮され、しかも、最新データを見ることができる。このシステムは他

の病院図書館ネットワークの先駆けとなった(図2)。

2005年10月現在、臨床で使われる約2500タイトルの和雑誌・洋雑誌が登録されている。会員だけではなく、全国の日赤看護大学・短期大学の所蔵資料も掲載しているため、所在がわかりにくい看護文献の検索にも大変役立っている。自室で所蔵のない文献の複写が安価に迅速に提供されるようになり、ネットワーク内での文献調達率も増加している。日赤のスケールメリットを活かしたこのシステムは、日赤間の連携と資源の有効活用を一層促進させたと言える。

IV. ナレッジ・マネジメント・システムをめざす

ナレッジ・マネジメントとは個人が知り得た知識・情報や経験を情報ネットワークに登録して、組織構成員がいつでも参照できるようにするものである⁶⁾。協議会ホームページを使って、ナレッジ・マネジメントを試みてみた。

図書館では、レファレンス・ワーク(質問を持って図書館に来た人に、資料により回答したり、回答が得られるように資料を紹介すること)⁷⁾という、担当者にとって欠かすことができない業務がある。インターネットの双方向の情報交換と即時性という特徴を活かした掲示板の設置を、当初から考えていた。ホームページ上で会員同士に質問・回答してもらうことで、電話や文書による問い合わせにかかる手間と時間を削減することができる。担当者一人では解決できない事例でも、解決まで導く手段として掲示板を利用することができる。今後、掲示板に投稿された業務に関する事例を整理しまとめることで、レファレンスワークの道しるべとなるパスファインダー(ある特定のトピックに関する資料や情報を収集する手順をまとめた情報探索ツール)⁸⁾のデータベースを構築できるのではないかと考えている。

また、他のナレッジ・マネジメント

日赤医学雑誌総合目録の検索

- ・雑誌名の一部を検索キーワードに指定してください。大文字と小文字は区別しません。
- ・スペースで区切るとAND検索になります。
- ・ISSNで検索するときは - (ハイフン) を入れてください。

日赤医学

図2-a) 検索画面

日赤医学
2556 件のデータのうち 1 件該当しました。

日赤医学 (0387-1215)
旭川 37(1985)+
釧路 8(1955)+
伊達
八戸 29(1976)+
仙台 48(1)(1998),49(1),54(2,3),55(2,3)56(1)(2004)
大田原 45(1983)-57(2005)+
前橋 23(1970),27,28,30-33,34(3,4),35(3,4),36,37(4),38(3,4),40(3,4),41(3,4),42(1,2,4),43,44(1-3),45-47,
さいたま 17(3)(1965)-51(2),52(1),53-55,56(1),57(1)(2005)+
医療七 8(1955)9(2-8),10-33,34(3-4),35,36(3-4),37-55(2003)
武蔵野 16(1964)+
成田 42(1990)-43,45+
みなど 29(1-2)(1977),41(3-4),42(3),44(3),46(1,3),47(1),48(1),53-55,56(1),57(1)(2005)

図2-b) 検索結果

ト・システムの試みとして、「医療機能評価受審資料」(図3)がある。この資料は「会員限定のページ」での利用となるが、ネットワークの特性を活かし、既に受審した図書室が、訪問審査で受けたQ&Aを提出することをシステム化したものである。データの蓄積により、質問の傾向をつかむことができるようになったため、これから受審する図書室では、最善の準備をし

て訪問審査に臨むことができる。これも紙面での情報収集と提供では、コストがかかり、適切なタイミングでの情報提供はできない。ネットワークのホームページを活用してこそ、メリットがある。現在は質問項目のリストのみであるが、質問内容を分析してデータベース化することで、必要な情報をいつでも活用できるようなシステムにしたい。

Home [会員限定のページ](#)

訪問審査質問事項 診療

徳島赤十字病院NEW!	高知赤十字病院NEW!	旭川赤十字病院	山田赤十字病院	松江赤十字病院
前橋赤十字病院	名古屋第一赤十字病院	仙台赤十字病院	飯山赤十字病院	福岡赤十字病院
さいたま赤十字病院	名古屋第二赤十字病院	広島赤十字・原爆病院	京都第一赤十字病院	静岡赤十字病院

徳島赤十字病院 2005年12月14日

Q: 担当者は何人ですか？
A: 広報学術係に2名、配属されています。患者さまに図書室を開放しているため図書室には常時1名おります。

Q: 図書ですか？
A: 図書ではありませんが、今年(平成17年)3月、ヘルスサイエンス情報専門員の資格をとりました。

Q: 図書室は24時間利用できますか？
A: 24時間、いつでも利用できます。セキュリティの問題のため、この10月から夜10時過ぎ警備員の巡回時に施錠する事にしましたが、鍵はすぐ近くの所定の場所にかけてあり、使用者は名簿に記載する事になっています。

Q: インターネット検索は？
A: 図書室にはインターネット接続のパソコンが2台あり、医中誌Web版、JDream等の検索が可能です。医師はほとんどが自分の端末を持っているため、図書室は看護師の利用が多くなっています。JDreamを導入したのも、看護師の利用が多いためです。

Q: 文献の支援はどうですか？
A: 図書室業務の半分以上が文献複写サービスとなっています。ネットワークに加入し、出来るだけ早く、安価で入手出来るよう努力しています。年間約1600件の申し込みがあります。最近では院外からの利用も増えています。

図3

V. 研究支援

協議会ホームページは、図書室の日常業務に役立つものだけではなく、医師の研究や研修医の支援をめざしている。

近年、洋雑誌の価格高騰などにより、所蔵タイトル数の減少が顕著である。また、オンラインジャーナルの利便性が周知され導入が望まれているが、個々の施設での契約は難しく、なかなか導入が進まない。そこで、日赤のスケールメリットを活かして、全国の日赤病院図書室からなるコンソーシアムを検討している。コンソーシアムを組んで、出版社に対し、交渉力を得れば、少額の追加資金により利用タイトルの拡大ができ、医師の研究にとってメリットが大きければ、研修医の研修病院選定にも大きな影響がある。大学で電子ジャーナルの利便性を知り得た研修医が、研修病院において電子ジャー

ナルが利用できるかどうかの違いは大きい。そのオンラインジャーナルを利用する際の入り口として協議会ホームページを利用できるよう検討中である。会員の施設から専用パスワードにより、入り口となるページから利用可能なジャーナルへリンクを張り、文献を得ることができる⁹⁾。是非実現させたい課題である。

VI. 日赤らしいホームページをめざして

日赤病院の使命として、災害時における救援活動があげられる。災害が起きたときに、救援活動に役立つ情報を迅速に提供することも、日赤図書室担当者の役割だと思う。協議会研修会では、実際に地震で被災した図書室における情報提供活動について事例報告をとりあげた¹⁰⁾。被災地の病院図書室ではクラッシュ症候群等の緊急に必要な文献入手には、時間帯や通信機器の状況により、困難を極めたと報告があった。

この様なときこそネットワークの協力が大切である。今後、協議会でも緊急時の対応について検討し、実際に災害が起きた際、協議会ホームページに災害関連文献とその所蔵情報を掲載するページの必要性を感じている。被災地の病院が、緊急に必要な災害時の文献を、傷病者が殺到し混乱する状況下においても速やかに入手できるようなホームページを作っていきたいと考えている。

Ⅶ. おわりに

現代の病院図書室機能は単独で機能することは難しい。図書室における利用者の求める資料情報の提供支援には、ネットワークでの協力が不可欠である。利用者からの要求が難しいものであればあるほど、活路は協議会に求められている。そして、積極的に会員同士が関与すればするほどネットワークシステムは有効に働く。また、図書室を介して日赤の医療の質・病院の質の向上が期待される。これからの図書室担当者には院内スタッフだけではなく、病診連携での地域開業医や患者さんなどを含めた利用者のニーズを正確に把握し、最も適切な情報を迅速に提供するスキルが必要とされる。そして、協議会ホームページは、担当者の情報提供業務を支援するものでなくてはならない。そのためには、インターネットの利便性と即時性を取り入れ、ネットワークを利用したホームページ上のナレッジを共有することが大切である。今後も情報の窓口となるホームページの充実に一層力を入れ、担当者の資質向上をはかりたいと考えている。

参考文献

- 1) 野原千鶴：病院図書室を取り巻く新しい動き. 病院 56(10):957-960, 1997.
- 2) 天野いづみ：静岡赤十字病院図書室における相互貸借業務の現況・製薬会社の文献情報サービス自粛後の影響. 静岡赤十字病院研究報 15(1):91-97, 1995.
- 3) 天野いづみ：新臨床研修医制度における図書室の役割. 日赤医学 57(1):188, 2005.
- 4) 天野いづみ, 望月雅子：新臨床研修制度における病院図書室の役割－図書室担当者と研修医へのアンケート調査からの分析－. 静岡赤十字病院研究報 25(1):6-11, 2005.
- 5) 牛澤典子：情報提供手段としてのホームページの活用. 日赤図書館雑誌 10(1):12-15, 2003.
- 6) 和気たか子：レファレンスサービス 病院図書館に揃えたいツールを知る 人物・団体・学会 ほすびたる らいぶらりあん 27(3):290-292, 2002
- 7) 豊田恭子：ナレッジマネジメントとは何か. 日赤ライブラリアンニュース 7(2):8-11, 2000.
- 8) 小嶋智美, 市川美智子：医療分野における図書館パスファインダーの可能性を探る. 医学情報サービス研究大会抄録集 22:44, 2005.
- 9) 熊谷智恵子：院内LANを活用しての情報発信. 日赤図書館雑誌 11(1):7-12, 2004.
- 10) 安達栄子：地震における情報提供活動 新潟県中越地震における病院図書室活動報告. 日赤図書館雑誌 12(1):38-42, 2005.